

海外派遣研究助成事業による研究の成果

研究者氏名	寺田 立人 印
所属機関	国立がん研究センター東病院
<ul style="list-style-type: none"> ・研究に従事した外国の研究機関名 ・参加した国際学会・会議名 	アメリカ臨床腫瘍学会 サポートィブケアシンポジウム 2019 Supportive Care in Oncology Symposium
渡航期間	自 令和元年 10 月 24 日 至 令和元年 10 月 27 日
<ul style="list-style-type: none"> ・研究内容 ・国際学会・会議内容 	Poster Session
<p>研究成果 (要約: 800 字)</p> <p>未成年の子どもを持つがん患者に対するアンケート調査のサブグループ解析を行い、「Determinants of cancer patients revealing their own cancers to minor children: A cross-sectional web-based survey in an online cancer community(がん患者が未成年の子どもに対して、自分ががんであることを伝える要因)」の課題で研究発表を行った。過去の研究ではがん患者は子どもに自分ががんであることを伝える重要性に関して、指摘されている。このため、告知することが前提として、いかに告知をするかといった視点での数 10 例程度の少ない症例についての質的研究があるのみであった。本研究は 300 名もの症例集積をし告知要因に関して言及した初めての報告であった。</p> <p>がん患者が自分の子供に自分ががんで有ることを伝えるのは非常にストレスが大きく困難である。本研究で示した告知要因を広く啓発し、患者ケアの一助とすべく、本研究結果を速やかに英語論文として国際雑誌に投稿していく予定である。</p> <p>自身の発表以外ではカンナビノイドに関するセッションがあり、米国を中心としたサポーティブケアにおけるトピックであった。日本においては法的に難しい面もあるが、今まで話題になったことのないカンナビノイドが症状緩和における有効性や不応になりがちな症例に関しての説明があった。日本における症状緩和は進んできているが、依然欧米に比して遅れている部分も多い。難治症例など適応を絞りながら、法的課題をクリアしながら、如何に緩和ケア領域に導入できるか検討する必要がある。</p>	